

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H04344

研究課題名（和文）アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究

研究課題名（英文）Historical Research of the Eugenic Protection Law as based on Constructing the Archives Collection.

研究代表者

松原 洋子（Matsubara, Yoko）

立命館大学・先端総合学術研究科・教授

研究者番号：80303006

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,200,000円

研究成果の概要（和文）：優生保護法による強制不妊手術関連の行政資料を、44都道府県および6市区町村から収集し、非公開のデジタル・アーカイブを構築、JPEG画像で開示文書47,549枚、歴史公文書9,128枚を収載した。地方自治体別に手術の実態を分析し、背景の検討および被害者へのインタビュー調査を実施した。その結果、強制不妊手術の運用の地域差、「優生手術」の理解および強制不妊方法の多様性、強制と任意の連続性等が示唆された。北米やヨーロッパとは異なる日本のアーカイブの意義の検討、すなわち日本の植民地支配を受けていた韓国・台湾等を含む東アジア領域における優生政策および強制不妊手術の文脈化が必要であることが再認識された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

優生学をELSI（倫理的・法的・社会的課題）との関連で考えるとき、諸科学の知識に基づき、医療技術により優生学的見地から特定の属性をもった人々の身体の不妊化を、強制的に実施することを可能にした断種法の歴史的検討はきわめて重要である。本研究で構築された強制不妊手術関連行政資料のデジタル・アーカイブは、強制不妊手術の実証的な実態解明に資するとともに、この問題を社会的に解明し課題を解決するための公共財として発展することが期待される。

研究成果の概要（英文）：Administrative documents related to forced sterilization under the Eugenic Protection Act were collected from 44 prefectures and 6 municipalities. A closed digital archive was constructed, containing 47,549 disclosed documents and 9,128 historical archives in JPEG format. Using these documents, the actual state of the surgeries was clarified for each local authority, background analyses were conducted, and interviews with survivors were carried out. The results suggest regional differences in the implementation of forced sterilization, varying understandings of 'eugenic operations' and sterilization methods, and a continuity between forced and voluntary sterilizations. It was reaffirmed that there is a need to examine the significance of the Japanese archive, which differs from that of North America and Europe. This includes contextualizing eugenic policies and forced sterilization within the East Asian region, encompassing Korea and Taiwan, which were under Japanese colonial rule.

研究分野：科学史、生命倫理学、科学技術社会論

キーワード：優生保護法 優生学 アーカイブ 政策評価 ELSI

## 1. 研究開始当初の背景

生命科学技術および医療技術のガバナンスの観点から、優生学を ELSI (倫理的・法的・社会的課題)との関連で考えるとき、諸科学の知識に基づき、医療技術による人々の身体の不妊化を可能にした断種法の歴史的検討はきわめて重要である。そこでは優生政策の中核である断種法の行政的な運用を、生命倫理の観点を含んだ政策評価の対象として捉える視点が必須となろう。日本では 2018 年の国家賠償請求訴訟の提訴を契機に、「不良な子孫」の出生防止を掲げた旧優生保護法下の強制的な不妊手術に対して、社会的な問題化と反省の動きが急速に進み、2019 年には被害者に対する一時金の支給等に関する法律が成立した。一方、強制不妊手術をめぐる優生保護法の運用については、その実態がこれまでほとんど研究されたことがなく不明な点が多い。

## 2. 研究の目的

本研究課題に関わる社会的・学術的背景には、二重の意味で欠落がある。第一に一次資料がほとんど体系的に残されていない、あるいは部分的に残されていてもその把握ができていないという「資料的欠落」である。第二に、優生手術に関わる実証的研究の蓄積が浅いという「学問的欠落」である。本研究では、この二重の欠落を可能な限り埋めるために、優生保護法の目的のひとつである「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」ことに関わる施策、中でも強制不妊手術の運用実態の解明をめざす。具体的には、(1)関連する公文書等の一次資料を収集した上で、「保存と公開」の機能を実装したアーカイブを構築し、(2)アーカイブの資料を利用して、優生学的な生殖管理の実態を分析するとともに、(3)それらの基礎を踏まえ、生命倫理に関わる政策評価の根拠になるエビデンスへのアクセス体制の構築を目指す。

## 3. 研究の方法

(1) アーカイブ構築：厚生労働省および都道府県、市町村等に保管されている公文書や運用規定等を中心とした一次資料を収集し、実証研究のための基盤整備を行う。その上で、当該資料の情報を集約したアーカイブを立命館大学の内部に作り、資料の「保存と公開」の機能を実装する。

(2) 資料分析：これら収集したアーカイブを利用し、行政レベルでいかなるプロセスの中で手術の対象者の選定、審査、承認等が行われていたかを分析する。

(3) 総合研究：優生保護法に関わるアーカイブ構築と実証分析を基礎としつつ、優生手術の運用実態を総合的に明らかにして政策評価を行うとともに、生命倫理に関わる政策評価の根拠となるエビデンスへのアクセス体制の構築を構想する。

## 4. 研究成果

### (1) アーカイブ構築

47 都道府県 7 市町村に優生保護法による強制不妊手術関連資料の開示請求を行い、公文書館等 38 施設の検索目録調査とメールでの調査、一部訪問調査を行った。調査では優生保護法下での強制不妊手術関係公文書(優生手術申請書・遺伝調査書・優生保護審査会議事録等)を想定して定式化した依頼書を作成し、網羅的な収集を試みた。当初、新型コロナウイルス感染症に伴う各種制限が収集作業に影響したものの、資料が確認されなかった岩手県・徳島県・沖縄県、名古屋市を除く 44 都道府県および 6 市区町村の資料収集とデータ化を 2023 年度に完了した。JPEG 画像は開示文書が 47,549 枚、歴史公文書等は 9,128 枚となった。解像度・閲覧性を考慮し TIFF および PDF データもあわせて作成した。加えて、国家賠償請求訴訟の判決文 14 件、各種統計資料・報告書約 1560 点を収集した。また、強制不妊手術の情報開示資料の量と質およびプロセスが自治体により異なり、それ自体が「(3)総合研究」の研究対象となるため、現秩序保存の原則にもとづき現状記録を残し、ナンバリングを含めた保存作業を行った。これらの履歴をすべて一元的に管理・記録し、自治体との連絡情報も ELM ファイルで保存した。さらに、資料に含まれる情報を 4 種類に分類し、自治体間のマスキング比較と研究利用の可能性を検討した。例えば優生手術申請日、事務の分掌、強制不妊手術の申請理由、申請者の医師の診療科情報がマスキングされているケースがあったが、これらは強制不妊手術問題の分析に不可欠な情報であり検証を困難にしている<sup>1)</sup>。なおアーカイブ化した電子データは立命館大学のオンラインストレージに保存、メンバーが収集した一部資料も含めて利用ガイドラインのもとで科研メンバーが閲覧できるようにした。以上をもって、優生保護法による強制不妊手術の公文書のアーカイブの基盤を構築することができ、将来の公開と活用に備えることができた。

### (2) 資料分析

【地域別分析】資料収集と並行して、分析可能な情報を得られた自治体について強制不妊行政の一端を明らかにした。大分県 優生保護審査会(1957 年度・1960 年度)で全 68 件中 64 件が手術適当と判定された。梅毒感染を理由とする申請(4 条)を否決、優生手術済みの申請を却下した例があった。岐阜県 優生保護審査会(1963 年)では申請の 6 名が全員「適」とされた。そのうち 1 名の知的障害者は申請書の病名より軽度との指摘があったものの手術は適当とされた

2)。愛知県 1967 年～1971 年度の優生保護審査会で審査対象となった 60 件のうち 51 件が女性であった。診断名は「精神薄弱」「精神分裂病」「てんかん」のほか「先天性聾啞」「網膜色素変性症」「小頭症兼糖尿病痴愚」など 4 条の適応となる「別表」の幅広い診断名が記載されていた。申請医師には精神科が多かったが、産婦人科、小児科、外科、皮膚泌尿器科からも行われた。さらに 1972 年の優生保護審査会で診断名が「健康」で申請された女性は手術不適となったが、備考欄に「行政指導で 3 条か」とあった。手術の適応となる夫ではなく妻の手術を優先させたことがうかがえる。4 条から 12 条・3 条の変更、4 条で法に定めのない同意書が添付されていた例も複数確認でき、4 条の再審査請求権の説明や、強制（4 条）と任意（3 条）の連続的運用の検証が必要である。最年少の 13 歳 2 名（女性、診断名「精神薄弱」）の申請理由には月経に自分で対応できないことが挙げられていた。1949～95 年の 4 条 12 条の手術承認総数（県『衛生年報』各 228/92）と手術実施総数（厚生省『優生保護統計報告』各 180/47）に相違があり、他県で手術拒否の事例があることを踏まえつつ、さらなる検討が必要である<sup>3)</sup>。

【背景分析】「地域別分析」で示された「優生手術」の理解および強制不妊方法の多様性、強制と任意の連続性については、背景分析からも以下のとおり示唆される。知的障害者施設の長・職員の交流を目的とした、日本精神薄弱者愛護協会機関誌『愛護』からは、優生保護法による術式では月経はなくならないにもかかわらず、月経停止に「優生手術」が有効であると施設職員らが認識していたことがわかる。また、1960 年代中頃から優生手術への消極的な論調がみられるようになり、1972 年には職員の研究集会で優生手術への反論が報告されていた。1967 年には施設の判断で手術された元入所者が施設に抗議した事例が紹介されている<sup>4)</sup>。また 1950 年代から 60 年代の全国精神薄弱児育成会機関誌、家族計画政策関連文書や啓蒙書では、公共の利益を視野に入れた優生学的見地から任意の優生手術（第 3 条）が推奨された<sup>5)</sup>。

【インタビュー】優生保護法被害国賠訴訟の原告と「全日本ろうあ連盟」による強制不妊手術調査により把握された被害者（60～90 才代）の合計 19 人（男性 7 人・女性 12 人）に研究協力を依頼し、立命館大学「人を対象とする研究倫理審査委員会」の承認（衣笠-人-2022-44）を経てインタビュー調査を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研究期間では予定していた調査の一部が未調査である。これらについては 2024 年度も調査体制を維持し、研究費を獲得して継続する。

### （3）総合研究

優生政策は、強制不妊手術のみならず優生結婚、遺伝カウンセリング、出生前診断の普及、優生学的理由による中絶などにも関わっていたが、強制不妊手術を中核に置くことで、優生政策史の国際比較や優生施策と医療・福祉・技術の関係の解像度を高めることができる。コロナ禍の影響による資料収集の遅れや収集資料の量と質の問題もあり、研究期間中に強制不妊行政の分析を完了することは、当初の想定以上に困難であった。しかし、関係公文書等の網羅的収集と電子データ化、各地方自治体の情報開示状況の記録化はほぼ完了し、今後の研究活動に必要な情報基盤の構築を達成できた。機微情報を含む強制不妊関係資料の保存と公開のあり方については、国の責任が明らかとなったハンセン病問題に関する歴史的な文書の保管・公開に関する課題を参照する必要がある<sup>6)</sup>。さらに海外の強制不妊問題のアーカイブ化状況の調査、および韓国の研究グループとの共同ワークショップなどから、北米やヨーロッパとは異なる日本のアーカイブの意義の検討、すなわち日本の植民地支配を受けていた韓国・台湾等を含む東アジア領域における優生政策および強制不妊手術の文脈化が必要であることが再認識された<sup>7)</sup>。

### 引用文献

- 1) 舟津悠紀、「アーカイブ構築による優生保護法史研究」プロジェクトにおける公文書調査事業、科学史研究、第 62 巻、2024、415-417
- 2) 後藤基行、優生保護法下における強制不妊手術の審査体制と議論、科学史研究、第 62 巻、2024、417-419
- 3) 末田邦子、愛知県における優生保護法下での強制不妊手術の運用実態：1966 年度～1971 年度を中心に、愛知淑徳大学論集福祉貢献学部篇、第 13 号、2023、19-32
- 4) 舟津悠紀、1960 年代における優生言説と 他者 のゆくえ：『愛護』にみる「優生手術」とその論調、部落解放研究、第 220 号、2024、177-196
- 5) 由井秀樹、1950 年代から 60 年代日本における家族計画と優生手術：優生保護法第 3 条に基づく優生手術、立命館人間科学研究、第 48 号、2024、33-46
- 6) 松岡弘之、公文書管理法とハンセン病問題：菊池恵楓園蔵「患者身分帳」をめぐる、岡山大学文学部紀要、第 76 巻、2023、60-50
- 7) 保明綾、海外における強制不妊手術に関するアーカイブ構築、科学史研究、第 62 巻、2024、419-421

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 松原洋子	4. 巻 607
2. 論文標題 母体保護法下で優生思想に向き合う	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 民医連医療	6. 最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原洋子	4. 巻 728
2. 論文標題 優生思想に抗うために	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 38-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舟津悠紀	4. 巻 62
2. 論文標題 「アーカイブ構築による優生保護法史研究」プロジェクトにおける公文書調査事業	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 科学史研究	6. 最初と最後の頁 415 - 417
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 後藤基行	4. 巻 62
2. 論文標題 優生保護法下における強制不妊手術の審査体制と議論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 科学史研究	6. 最初と最後の頁 417 - 419
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 保明綾	4. 巻 62
2. 論文標題 海外における強制不妊手術に関するアーカイブ構築	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 科学史研究	6. 最初と最後の頁 419-421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舟津悠紀	4. 巻 (220)
2. 論文標題 1960年代における優生言説と 他者 のゆくえ : 『愛護』にみる「優生手術」とその論調	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 177-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 (76)
2. 論文標題 公文書管理法とハンセン病問題 : 菊池恵楓園蔵「患者身分帳」をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/okadai-bun-kiyou/66176	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 (115)
2. 論文標題 ハンセン病療養所と公文書管理法 : 「未登録文書」の継承基盤構築をめぐる諸課題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会報	6. 最初と最後の頁 45-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 (20)
2. 論文標題 障害がある女性の積み重ねてきた経験をたどる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 160-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 利光恵子	4. 巻 (1831・1832)
2. 論文標題 強制不妊が奪ったもの：宮城県における優生手術被害者の証言とその背景から考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 賃金と社会保障	6. 最初と最後の頁 38-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 4(4)
2. 論文標題 トピックス「身体完全性違和 (Body Integrity Dysphoria: BID)」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神科Resident	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 (33)
2. 論文標題 セキュリティ技術が支配する社会：生活に浸透する"生政治"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 クライテリオン	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田亮三	4. 巻 63
2. 論文標題 医療同等性の徹底に向けて：欧州の経験からの示唆	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 刑法雑誌	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末田邦子	4. 巻 14
2. 論文標題 1960年代における精神衛生相談所の優生相談	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集福祉貢献学部編	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村江里	4. 巻 75(9)
2. 論文標題 「社会的苦しみ」としての戦争トラウマ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BRAIN and NERVE	6. 最初と最後の頁 1059-1064
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村江里	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 心を壊された日本軍兵士たち：アジア・太平洋戦争とその長期的影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神医学史研究	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 臼井久実子, 瀬山紀子	4. 巻 5(1797)
2. 論文標題 増大する「心身の故障」欠格条項：2020年障害者欠格条項調査報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 賃金と社会保障 = Wage & social security	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤基行	4. 巻 34(1)
2. 論文標題 国立肥前療養所における開放医療と患者：『患者名簿』・『退院願綴』からみる入退院パターンの分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 34-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 由井秀樹	4. 巻 48
2. 論文標題 1950年代から60年代日本における家族計画と優生手術：優生保護法第3条に基づく優生手術	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 立命館人間科学研究	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 (76)
2. 論文標題 公文書管理法とハンセン病問題：菊池恵楓園蔵「患者身分帳」をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/okadai-bun-kiyou/66176	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 (115)
2. 論文標題 ハンセン病療養所と公文書管理法：「未登録文書」の継承基盤構築をめぐる諸課題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会報	6. 最初と最後の頁 45-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河口尚子	4. 巻 (20)
2. 論文標題 障害がある女性の積み重ねてきた経験をたどる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 160-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 4(4)
2. 論文標題 トピックス「身体完全性違和（Body Integrity Dysphoria: BID）」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神科Resident	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 (33)
2. 論文標題 セキュリティ技術が支配する社会：生活に浸透する"生政治"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 クライテリオン	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田亮三	4. 巻 63
2. 論文標題 医療同等性の徹底に向けて：欧州の経験からの示唆	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 刑法雑誌	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末田邦子	4. 巻 14
2. 論文標題 1960年代における精神衛生相談所の優生相談	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集福祉貢献学部編	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中村江里	4. 巻 75(9)
2. 論文標題 「社会的苦しみ」としての戦争トラウマ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BRAIN and NERVE	6. 最初と最後の頁 1059-1064
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村江里	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 心を壊された日本軍兵士たち：アジア・太平洋戦争とその長期的影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神医学史研究	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡 弘之	4. 巻 2
2. 論文標題 昭和初期のハンセン病療養所における軽快退所事例について：第五区連合九州療養所の場合	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文明動態学	6. 最初と最後の頁 32-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/64200	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 77(1)
2. 論文標題 第90回瀬戸内集談会講演：ハンセン病関連資料の継承のために (下)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛生	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 23
2. 論文標題 和志美最堂のみた外島保養院：「一河の流れ」を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ふれあい福祉だより	6. 最初と最後の頁 24-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 76(6)
2. 論文標題 第90回瀬戸内集談会講演：ハンセン病関連資料の継承のために (上)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛生	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本明	4. 巻 24
2. 論文標題 琉球精神衛生法下(1960-1972年)の精神医療: 貧困と医療費をめぐる諸問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末田邦子	4. 巻 13
2. 論文標題 愛知県における優生保護下での強制不妊手術の運用実態: 1966年度~1971年度を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集. 福祉貢献学部篇	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂井めぐみ	4. 巻 173
2. 論文標題 戦争が生かした障害者	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊 福祉労働	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原洋子	4. 巻 7
2. 論文標題 新優生学と産む 女 の行方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シモーヌ	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 21
2. 論文標題 購買部からみたハンセン病療養所	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 49(2)
2. 論文標題 書評 清水寛著『太平洋戦争下の国立ハンセン病療養所 多磨全生園を中心に』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 855
2. 論文標題 婦長殉職之碑とその周辺：戦時ハンセン病療養所における職員「顕彰」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 62-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡弘之	4. 巻 247
2. 論文標題 藤本としてみるハンセン病療養所とジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 76 (6)
2. 論文標題 配分される死：パンデミックとトリアージ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 98
2. 論文標題 パンデミック再考：生活習慣病としての新型コロナ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 125-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 50(7)
2. 論文標題 精神医学の哲学としてのDSM的理性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 719-724
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬達哉	4. 巻 49(12)
2. 論文標題 クリスパー (CRISPR) 哲学とラマルクの危険な思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 146-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 美馬 達哉	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 COVID-19があぶりだしたトリアージ問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20593/jabedit.31.1_12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 美馬 達哉	4. 巻 106
2. 論文標題 C O V I D - 19とリスク社会	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学研究	6. 最初と最後の頁 13-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50980/shakaigakukenkyu.106.0_13	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 美馬 達哉	4. 巻 32
2. 論文標題 監視と保健医療社会学と新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18918/jshms.32.2_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田 亮三	4. 巻 32(1)
2. 論文標題 ゲノム情報を用いた健康予測サービス : 課題と政策的含意	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18918/jshms.32.1_3	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 利光恵子	4. 巻 281
2. 論文標題 優生思想の今：いのちが誕生する場ですすむ選別と商業化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学的社会主義	6. 最初と最後の頁 45-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計84件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 「大東亜共栄圏」とハンセン病医たち
3. 学会等名 2022年度岡山大学文学部プロジェクト研究・研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 パクミンジョン, 松岡弘之
2. 発表標題 入所者の住宅からみた長島愛生園の歴史
3. 学会等名 第14回岡山大学文明動態学研究所マンスリー研究セミナー (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野上玲子, 廣川和花, 高野弘之, 松岡弘之
2. 発表標題 開所期九州療養所入所者の救護費徴収に関する一考察
3. 学会等名 第95回日本ハンセン病学会学術大会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 廣川和花, 高野弘之, 野上玲子, 松岡弘之
2. 発表標題 明治40年法律第11号「癩予防ニ関スル件」(1907年)下での九州療養所入所者の家族関係の考察
3. 学会等名 第95回日本ハンセン病学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 ハンセン病資料の継承のために
3. 学会等名 国立療養所長島愛生園, 邑久光明園, 大島青松園: 第90回瀬戸内集談会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mima, T.
2. 発表標題 COVID-19 and Life Itself: The Case of Ventilator Users
3. 学会等名 Covid-19 Conference "Learning lessons from Covid-19: Hearing voices from multi-lingual cultural and vulnerable communities" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 精神疾患・障害をめぐるせめぎ合いの社会学: コンテストーションの諸相
3. 学会等名 第48回保健医療社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 「コロナと境界」
3. 学会等名 第70回関東社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 医学はどのように私たちが監視しているのか
3. 学会等名 メディカルジャーナリズム研究会オンラインサロン（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mima, T
2. 発表標題 Euthanasia with a Thousand Faces: Considering the ALS Patient Commissioned Murder Case in Kyoto
3. 学会等名 Japan-Netherlands Workshop in Kyoto（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 「リスクの医学」の淵源とその彼岸
3. 学会等名 「感染症流行下における身体とその統治」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保明綾
2. 発表標題 “Living Archives on Eugenics in Western Canada” カナダにおける優生学史研究・実践
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第6回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 由井秀樹
2. 発表標題 優生保護法のもとでの本人意思に基づく不妊手術：家族計画と不妊手術
3. 学会等名 日本保健医療社会学会第48回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田亮三
2. 発表標題 普遍医療給付の徹底に向けた課題：医療機構論からの検討
3. 学会等名 貧困研究会第15回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田亮三
2. 発表標題 性と生殖に関わる権利からみた普遍給付上の課題
3. 学会等名 性と生殖に関わるサービス保障研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 利光恵子
2. 発表標題 障害女性への子宮摘出をめぐる：大佐荘事件を中心に
3. 学会等名 障害学会第19回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂井めぐみ
2. 発表標題 流産・中絶胎児の標本蒐集と優生政策の強化：「京都コレクション」を中心に
3. 学会等名 日本科学史学会第69回年会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 断種法としての旧優生保護法における強制不妊
3. 学会等名 第34回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 旧優生保護法の歴史と倫理的課題
3. 学会等名 第74回日本産科婦人科学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 長島愛生園における断種関連記録の調査状況について
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第4回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 末田邦子
2. 発表標題 旧優生保護法下の精神衛生相談所における精神衛生相談の実態：東京の検討を中心に
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第4回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本明
2. 発表標題 アメリカ占領下沖縄の優生立法：優生保護法の廃止とその背景
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第4回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡本晃明
2. 発表標題 「拡張される非開示事由の弊害：旧優生保護法公文書情報公開訴訟から
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第5回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 海外における公文書等を用いた強制不妊手術実態調査の状況
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第5回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 利光恵子
2. 発表標題 宮城県における優生保護法をめぐる実態：優生保護法関連公文書から
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第5回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 優生保護法改正経緯と通知類の状況について
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」研究会：第6回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 ハンセン病者と近代日本
3. 学会等名 岡山大学文明動態学研究所キックオフ・シンポジウム「パンデミックと文明：感染症と向き合う過去から未来へ」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 近代日本のハンセン病療養所における生活と自治：「清潔」・「洗浄」を手がかりに
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館産学共同研究「清潔と洗浄をめぐる総合的歴史文化研究」研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤基行、中村江里、竹島正、三野進、太田順一郎、中島直、佐藤真弓、早苗麻子、富田三樹
2. 発表標題 公文書にみる旧優生保護法の運用実態と精神科医
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 医療・ヘルスケア政策史研究と医療アーカイブズをめぐる諸課題
3. 学会等名 第33回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 医療ヘルスケアアーカイブズの諸問題と公共性
3. 学会等名 【シンポジウム】医療ヘルスケアアーカイブズの保存と利用に関わる諸課題と当事者参加
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 保健医療社会学と新型コロナウイルス感染症：監視をめぐって
3. 学会等名 第47回日本保健医療社会学会大会（ウェブ開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 コロナ下におけるトリアージ
3. 学会等名 生存科学研究所研究会（ウェブ開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 COVID-19とトリアージ：誰も取り残さないために何ができるか
3. 学会等名 日本生命倫理学会第33回年次大会（ウェブ開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 クリスパー（CRISPR）哲学とラマルクの危険な思想
3. 学会等名 生物学史分科会研究会（ウェブ開催）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 COVID-19からみえる排除の構造
3. 学会等名 日本社会病理学会第37回大会（ウェブ開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 美馬達哉
2. 発表標題 生命倫理学者という職業
3. 学会等名 日本生命倫理学会基礎理論部会（ウェブ開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 由井秀樹
2. 発表標題 新優生学的手段としてみる優生手術と人工授精
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究会」：第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 利光恵子
2. 発表標題 旧優生保護法の運用実態と優生手術の様相：1950～60年代の公文書から
3. 学会等名 第18回障害学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂井めぐみ
2. 発表標題 脊髄損傷医療と戦争：日清戦争から第二次世界大戦まで
3. 学会等名 第34期科学史学校（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 優生学の何が問題か：日本学術会議提言の議論から
3. 学会等名 日本哲学会第80回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoko Matsubara
2. 発表標題 Legacy of Eugenics: Reproduction, Female Body, and Medical Technologies
3. 学会等名 East Asia Disability Studies Forum 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舟津悠紀
2. 発表標題 神奈川県・北海道における優生行政の歴史的研究：現状と課題
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究会」：第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 優生保護法下における精神科医の役割：公文書の分析から
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究会」：第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村江里
2. 発表標題 精神科医と優生政策 戦後の精神医学書の分析を中心に
3. 学会等名 科研基盤A「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究会」：第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 日本における強制不妊手術関連公文書アーカイブ構築の意義と課題
3. 学会等名 日本科学史学会第70回年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 舟津悠紀
2. 発表標題 優生保護法関係資料収集・保存作業最終報告
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史」研究第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 舟津悠紀
2. 発表標題 「アーカイブ構築による優生保護法史研究」プロジェクトにおける公文書調査事業
3. 学会等名 日本科学史学会第70回年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 神奈川県における旧優生保護法の運用実態 - 県立公文書館所蔵資料の分析 -
3. 学会等名 第119回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 優生保護法下における強制不妊手術の審査体制と議論
3. 学会等名 日本科学史学会第70回年会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hideki Yui
2. 発表標題 Sterilization policy in post war Japan: Forced sterilization and family planning
3. 学会等名 The 8th Association for Asian Study-in-Asia Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本明
2. 発表標題 アメリカ占領下沖縄の優生立法 - 優生保護法の廃止とその背景
3. 学会等名 第124回日本医史学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本明
2. 発表標題 国民優生法（1940-1948年）による優生手術の実際 鳥取県立公文書館所蔵資料の検討
3. 学会等名 第26回日本精神医学史学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 コメント：これからの議論のために
3. 学会等名 第17回ハンセン病市民学会交流集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 「患者身分帳」は「史料」なのか 公文書管理法とハンセン療養所
3. 学会等名 岡山地方史研究会7月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 ハンセン病療養所と公文書管理法 「未登録文書」の継承基盤構築をめぐる諸課題
3. 学会等名 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第49回全国（東京）大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡弘之
2. 発表標題 金幸亨報告「韓国ハンセン病/ハンセン人資料のアーカイブ化の現状」へのコメント
3. 学会等名 歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Megumi Sakai
2. 発表標題 Disabled People and Medical Research in Japan in the 1960s : The Process of Establishing the “Kyoto Collection” [Poster]
3. 学会等名 Disability Studies Forum in Korea (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoko Kawaguchi
2. 発表標題 Intersectionality and Disability
3. 学会等名 W7 Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 利光恵子
2. 発表標題 旧優生保護法の運用実態と優生手術の実相－宮城県の場合
3. 学会等名 日本精神神経学会総会 法委員会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aya Homei
2. 発表標題 Involuntary Sterilization in Post-WWII Japan: Reappraising the Japanese Eugenic Protection Law
3. 学会等名 北京大学科学技术医療史学部（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aya Homei
2. 発表標題 Disability, Population, and Technoscience in East Asian Eugenics
3. 学会等名 Association of Asian Studies Asia 2023（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aya Homei
2. 発表標題 What crisis was at stake? Sterilization and social order in Japan after World War II
3. 学会等名 16th International Conference for the History of Science in East Asia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aya Homei
2. 発表標題 Making of the 'Feeble-minded': Gender and Family for the Medical Discourse around Involuntary Sterilization in 1950s Japan
3. 学会等名 Eikei Feminism/Gender Studies Seminar series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aya Homei
2. 発表標題 Administrative materials related to forced sterilization in Japan
3. 学会等名 パリ大学シテ校東アジア学部 Graduate Source Analysis Seminar series 2023-24 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保明綾
2. 発表標題 戦後日本の再ノ生産とトランスナショナルな科学の実践 優生保護法再考
3. 学会等名 優生保護法のグローバル史 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保明綾
2. 発表標題 日本の戦後復興と二分化される身体：優生保護法下の不妊手術・人工妊娠中絶・受胎調節（1950年代を中心に）
3. 学会等名 「歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより」（Eugenics in History and Sources From the Cases of Japan and South Korea）：「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第9回研究会（国際学会）
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 橋本明
2. 発表標題 沖縄の優生法制と強制不妊
3. 学会等名 「歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより」(Eugenics in History and Sources From the Cases of Japan and South Korea)：「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第9回研究会(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松原洋子
2. 発表標題 優生保護法関連史料アーカイピングの社会的・政策的意義
3. 学会等名 「歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより」(Eugenics in History and Sources From the Cases of Japan and South Korea)：「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第9回研究会(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 優生保護法下における強制不妊手術：申請と審査手続き
3. 学会等名 「歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより」(Eugenics in History and Sources From the Cases of Japan and South Korea)：「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第9回研究会(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 舟津悠紀
2. 発表標題 優生保護法に関する公文書調査の概要および開示文書の問題点について：「アーカイブ構築による優生保護法史研究」プロジェクトにおける」
3. 学会等名 「歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより」(Eugenics in History and Sources From the Cases of Japan and South Korea)：「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第9回研究会(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村江里
2. 発表標題 精神衛生・公衆衛生と優生教育
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 末田邦子
2. 発表標題 愛知県における優生保護法下での強制不妊手術の運用実態 1966年度～1971年度を中心に
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 由井秀樹
2. 発表標題 北海道の保健所による強制不妊手術対象者の捕捉活動と家族計画
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 橋本明
2. 発表標題 占領期沖縄の優生法制とその運用
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 後藤基行
2. 発表標題 公文書にみる強制不妊手術の申請と審査プロセス 優生保護法と精神科医
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 保明綾
2. 発表標題 優生保護審査過程での『精神薄弱』をめぐる言説
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 利光恵子, 瀬山紀子, 河口尚子, 坂井めぐみ
2. 発表標題 優生保護法史研究のための、障害を理由とした不妊手術等を受けた被害者へのインタビュー調査について
3. 学会等名 「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」第10回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松田亮三
2. 発表標題 日本における「健康格差」対策：既存の政策パラダイムによる限定
3. 学会等名 第64回日本社会医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 末田邦子
2. 発表標題 愛知県における優生保護法下での強制不妊手術の運用実態
3. 学会等名 全国障害者問題研究会茨城支部：優生保護法の地域実態研究会（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 中村江里，後藤基行，竹島正，三野進，富田三樹生
2. 発表標題 診療録を用いた優生手術の実態調査に向けた方法論の開発
3. 学会等名 第119日本精神神経学会学術総会 法委員会シンポジウム「旧優生保護法と精神科医」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村江里
2. 発表標題 戦後家族の中の『戦争』：復員軍人のトラウマと世代間の影響
3. 学会等名 第22回日本トラウマティック・ストレス学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村江里
2. 発表標題 兵士たちの心の中の戦争
3. 学会等名 第37回日本看護歴史学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保明綾
2. 発表標題 海外における強制不妊手術に関するアーカイブ構築
3. 学会等名 日本科学史学会第70回年会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 岡山大学文明動態学研究所編、鈴木茂之、野坂俊夫、山本悦世、松多信尚、隈元崇、福田宏、加藤内蔵進、奥島雄一、中田和義、山口雄治、光本順、清家章、ライアン・ジョセフ、今津勝紀、岩崎志保、高野宏、徳永誓子、東野将伸、岡嶋隆司、万城あき、野崎貴博、松岡弘之、才士真司、藤井大児、市田真紀、津守貴之、北川博史、川田力ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 368
3. 書名 大学的岡山ガイド：こだわりの歩き方	

1. 著者名 加藤 泰史、後藤 玲子、美馬達哉、エゼキエル・J・エマニュエル、ギブソン松井佳子、諸昭喜、隠岐須賀麻衣、馬場智一、品川哲彦、ジルベール・オトワ、小林道太郎、香川知晶、宇佐美公生、ベッティナ・シェーネ＝ザイファート、魏偉、李亜明、小椋宗一郎、金相得	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 494
3. 書名 尊厳と生存	

1. 著者名 公益財団法人日本学術協力財団編、梶田隆章、香川知晶、加藤泰史、建石真公子、齊尾武郎、児玉真美、美馬達哉、姫野友紀子、川口有美子、鍾宜錚、柏崎郁子、田中美穂、香川知晶、土井健司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本学術協力財団	5. 総ページ数 236
3. 書名 学術会議叢書30「人間の尊厳」とは：コロナ危機を経て	

1. 著者名 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編、岩崎晋也、鶴沼恵晴、柴田謙治、岡本周佳、渡邊かおり、平将志、山田知子、杉本弘幸、義基祐正、竹原幸太、中島洋、橋本明、宇都宮みのり、末田邦子、大西次郎、川崎愛、菊池義昭、三上邦彦、高松誠、輪倉一広、野口武悟、元村智明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 近現代資料刊行会	5. 総ページ数 718
3. 書名 戦後社会福祉の歴史研究と方法：継承・展開・創造 第2巻 <理論・総括>	

1. 著者名 Waltraud Ernst, Thomas Muller, David Korostyshevsky, Ricardo Campos, Mauricio Becerra Rebolledo, Jacqueline Leckie, Simon Heap, Jasmin Brotz, Kostis Gkotsinas, Nina S. Studer, Akira Hashimoto, Mat Savelli, Adela Gjuricova, Christian Werkmeister	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Manchester University Press	5. 総ページ数 402
3. 書名 Alcohol, psychiatry and society: Comparative and transnational perspectives, c. 1700-1990s	

1. 著者名 菊地夏野編、堀江有里編、飯野由里子編、光本順、藤高和輝、瀬山紀子、飯野由里子、山下梓、欧陽珊瑚、山本美由美、黒岩裕市、河口和也、明智カイト、井芹真紀子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 クエア・スタディーズをひらく3 第3巻 健康ノ病、障害、身体	

1. 著者名 日本医史学会編、坂井めぐみ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 836
3. 書名 医学史辞典	

1. 著者名 坪井秀人、市川遥、葉暁瑤、ニコラス・ランブレクト、中村平、宋恵媛、解放、川口隆行、キツニック・ラウリ、鳥羽耕史、高榮蘭、高畑早希、田村美由紀、黒川伊織、石川巧、増田齋、小杉亮子、辛島理人、奥村華子、佐藤泉、光石亜由美、ホワニシャン・アストギク、飯田祐子、美馬達哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 376
3. 書名 戦後日本の傷跡	

1. 著者名 田坂さつき、香川知晶、石井哲也、島園進、土井健司、ドミニク・ウィルキンソン、一ノ瀬正樹、松原洋子、柳原良江	4. 発行年 2022年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 290
3. 書名 人のゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して	

1. 著者名 ジェンダー事典編集委員会編、瀬山紀子、松原洋子ほか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 800
3. 書名 ジェンダー事典	

1. 著者名 土屋葉、伊藤葉子、臼井久実子、河口尚子、小森淳子、後藤悠里、瀬山紀子、時岡新、渡辺克典	4. 発行年 2023年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 326
3. 書名 障害があり女性であること 生活史からみる生きづらさ	

1. 著者名 シドニー・ブロック, スティーブン・A・グリーン, アレクサンダー・ジャンカ, フィリップ・B・ミッチェル, マイケル・ロバートソン 編集 / 竹島正 監訳 / 後藤基行ほか訳	4. 発行年 2024年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 794
3. 書名 共生社会のための精神医学	

1. 著者名 Wanhong Zhang, Elisabeth Bjornstol, Peng Ding, Wei Gao, Hanxu Liu and Yijun Lju(eds) Wai Wai Aung, Rama Dhakal, Dong Dong, Yuan Feng, Yang Hao, Luanjiao Hu, Shixin Huang, River Hustad, Sarita Lamichhane, Xuehui Li, Yujiao Peng, Chengqing Shen, Jiani Guo, Wei Tong, Yue Xu, Carmen Yau, and Naoko Kawaguchi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 213
3. 書名 Disability, Sexuality, and Gender in Asia: Intersectionality, Human Rights, and the Law	

1. 著者名 障害学会20周年記念事業実行委員会編, 市野川容孝, 河口尚子ほか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 496
3. 書名 障害学の展開	

1. 著者名 竹島正, 森茂起, 中村江里編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 戦争と文化的トラウマ	



1. 著者名 優生思想をほぐす実行委員（佐々木和子、利光恵子、藤原久美子、見形信子、須賀ナオ [ 河口尚子 ] ）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 「優生思想をほぐす」実行委員会	5. 総ページ数 93
3. 書名 シリーズ優生思想をほぐす：Zoomみんなで話してみよ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

医療・ヘルスケア政策データアーカイブ <a href="https://jmhp-data-archive.com/">https://jmhp-data-archive.com/</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	末田 邦子 (Sueda Kuniko) (00434556)	愛知淑徳大学・福祉貢献学部・准教授  (33921)	
研究分担者	坂井 めぐみ (Sakai Megumi) (00851578)	立命館大学・衣笠総合研究機構・特別研究員 (RPD)  (34315)	
研究分担者	松田 亮三 (Matsuda Ryoza) (20260812)	立命館大学・産業社会学部・教授  (34315)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	美馬 達哉 (Mima Tatsuya) (20324618)	立命館大学・先端総合学術研究科・教授 (34315)	
研究分担者	中村 江里 (Nakamura Eri) (20773451)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・准教授 (15401)	
研究分担者	松岡 弘之 (Matsuoka Hiroyuki) (30877808)	岡山大学・社会文化科学学域・准教授 (15301)	
研究分担者	橋本 明 (Hashimoto Akira) (40208442)	愛知県立大学・教育福祉学部・教授 (23901)	
研究分担者	由井 秀樹 (Yui Hideki) (40734984)	山梨大学・大学院総合研究部・特任助教 (13501)	
研究分担者	久保田 明子 (Kubota Akiko) (40767589)	広島大学・原爆放射線医科学研究所・助教 (15401)	
研究分担者	後藤 基行 (Goto Motoyuki) (70722396)	立命館大学・先端総合学術研究科・准教授 (34315)	
研究分担者	瀬山 紀子 (Seyama Noriko) (00599813)	埼玉大学・その他部局等・准教授 (12401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	利光 恵子  (Toshimitsu Keiko)	立命館大学・生存学研究センター・客員研究員  (34315)	
研究協力者	河口 尚子  (Kawaguchi Naoko)	立命館大学・生存学研究センター・客員研究員  (34315)	
研究協力者	保明 綾  (Homei Aya)	マンチェスター大学・Japanese Studies・Senior Lecturer	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Eugenics in History and Sources From the Cases of Japan and South Korea	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Learning from the Living Archives on Eugenics in Western Canada: An interview with Professor Erika Dyck	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関